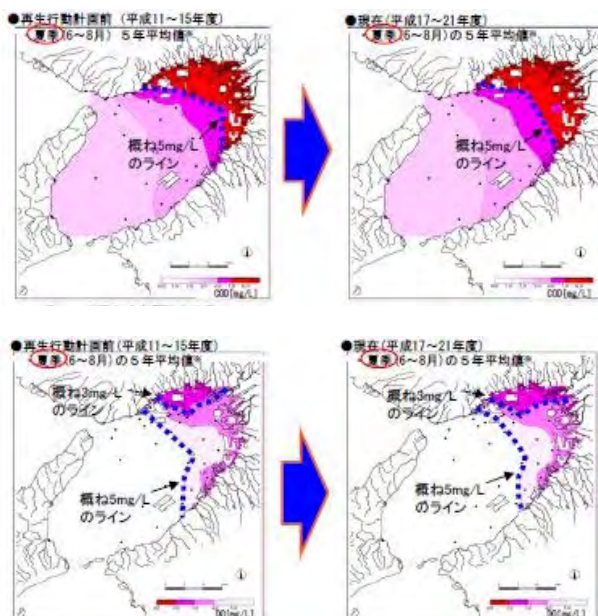




【生物の棲みやすさ】

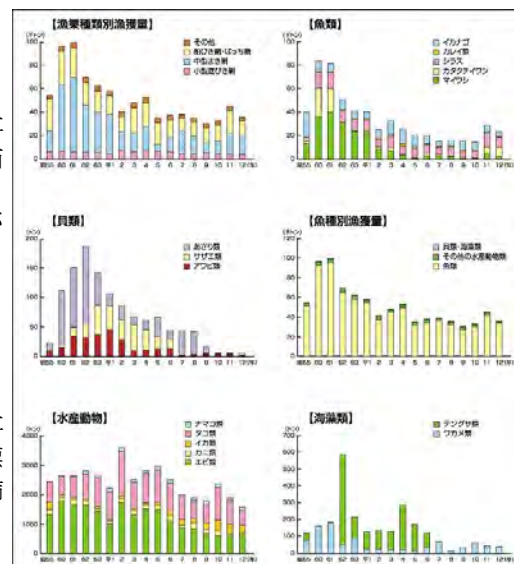
夏季底層 DO
水平分布

港奥部では大阪湾再生計画における当面の目標値である 3mg/l 未満の海域が残る

【水のきれいさ】

夏季表層 COD
水平分布

港奥部では大阪湾再生計画における目標値である 5mg/l 未満の海域が残る

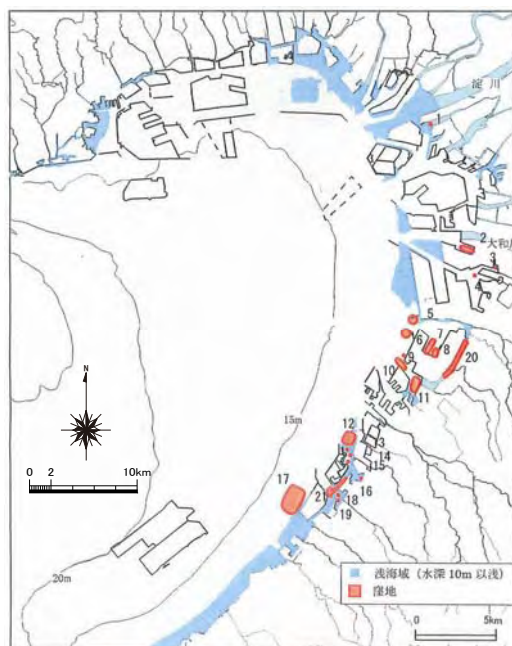


出典：大阪湾再生行動計画 平成 16 年度から平成 21 年度までの活動報告とりまとめ

出典：大阪府 HP より

図 大阪湾の底層 DO、表層 COD の分布

図 漁獲量の推移



No.	位置	表面積 (㎡)	窪地深さ (m)	容積 (万m ³)
1	正蓮寺川河口	88,000	1.0	8.8
2	北泊地	359,850	3.5	124.8
3	堺泉北港堺1区前	63,888	2.6	16.6
4	堺泉北港堺3区、4区前	19,360	5.7	11.0
5	コスモ石油原油棧橋	317,262	2.4	76.1
6	大がスLNG第2棧橋	159,720	5.4	86.2
7	浜寺泊地1	299,475	5.7	170.9
8	浜寺泊地2	160,325	8.6	136.9
9	堺泉北港泉北1区南西角	11,493	11.4	13.1
10	堺泉北港泉北1区と助松ふ頭間	105,875	11.0	116.5
11	大津泊地	500,626	8.7	437.2
12	阪南2区沖	452,540	5.8	262.5
13	阪南港阪南2区奥北	63,525	4.6	29.2
14	阪南港阪南2区奥中	32,912	2.7	8.9
15	阪南港阪南2区奥南	108,900	4.5	49.0
16	岸和田旧港内	48,400	5.0	24.2
17	阪南港4区沖	1,287,000	10.5	1,351.4
18	貝塚市津田川河口沖1	23,595	3.1	7.3
19	貝塚市津田川河口沖2	34,848	2.4	8.4
20	浜寺水路	150,282	7.7	115.7
21	阪南2区、4区間	418,660	4.6	192.6
合 計				3,247.3

※白抜きは堺臨海部に位置するもの

図 大阪湾の窪地の分布図



図 直立護岸や波消しブロックにより失われた干潟、砂浜、藻場



図 深堀跡により発生した青潮

以上より、堺臨海部における自然環境の観点からみた現状は、**広大な緑地や人工干潟等、生物生息空間の形成や、水質改善への取組みが実施されているものの、海域環境の更なる改善が必要で、生物の良好な生息環境が維持できないことから、漁業等にも影響を及ぼしている**ことです。

2.1.4 地球環境問題対応の観点

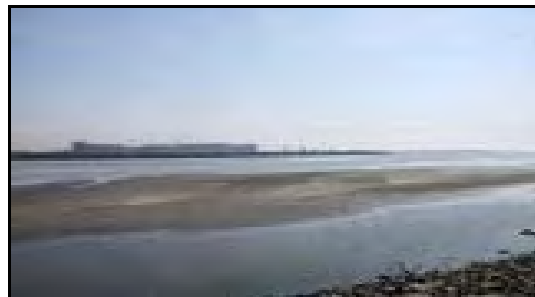
地球環境問題対応（循環型社会・低炭素社会・自然共生社会の形成、生物多様性の保全）の強み・弱みから見た堺臨海部の現状は、以下のとおりです。

<強み>

- 近年、生物多様性の保全の重要性が認識される（生物多様性条約第 10 回締約国会議(COP10)が平成 22 年日本で開催）、大和川河口部の汽水域を活用した生物生息空間の保全・向上が期待されています。
- 堺浜においては、行政、企業、NPO による海域環境改善に向けた研究・調査、清掃活動が実施されています。
- 日本を代表する堺泉北臨海工業地帯を有し、最先端の産業技術の集積が進んでいます。
- 堺第 7-3 区では、日本で初めて民間営業を開始した堺太陽光発電施設が稼動しています。



図 堺第 7-3 区太陽光発電施設



出典：大阪湾再生計画 HP

図 生物多様性が期待されている
大和川河口部の汽水域

<弱み>

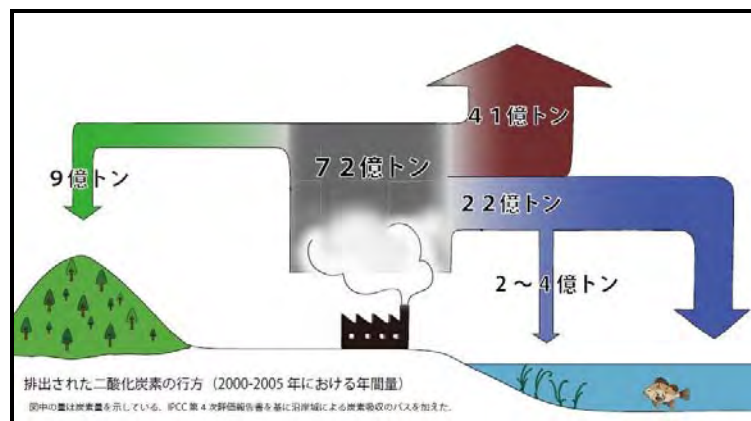
- 干潟、砂浜、藻場が消失し海辺での砕波による CO₂ 吸収能力が低下しています。
- 浅場、藻場における海藻・生物類による CO₂ 吸収能力も皆無（ブルーカーボン）です。
- 臨海部にヒートアイランド対策となるクールダムや CO₂ 吸収に寄与する大規模な緑地（グリーンカーボン）の形成が必要です。
- 今後の海面埋立による新たな土地造成は困難な状況にあり、廃棄物処分場の延命のための資源の有効活用が求められています。



図 共生の森のイメージ



出典：大阪湾広域臨海環境整備センターHP
図 大阪湾フェニックス計画



出典：国土交通省 HP より

図 ブルーカーボンの概念

以上より、地球環境問題対応の強み・弱みからみた現状は、**循環型社会・低炭素社会・自然共生社会の形成、生物多様性の保全など、地球規模での環境問題への対応が求められている**ことです。

2.1.5 堺臨海部の現状のまとめ

以上より、堺臨海部の現状は下表及び資源マップ（強み）・問題点マップ（弱み）のとおりです。

表 各観点から見た堺臨海部の現状

観点	堺臨海部の現状（強み・弱み）
社会活動	多数の歴史文化資源を有し・市民等による各種活動が実施されつつあるものの、市民・来訪者にとって魅力のある憩い・賑わいの場が不足している
生活環境	良好な視点場を有しているものの、市民・来訪者・子どもの海辺での癒し・憩い空間が不足するとともに、触れ合うに相応しい水辺環境となっていない
自然環境	広大な緑地や人工干潟等、生物生息空間の形成や、水質改善への取り組みが実施されているものの、海域環境の更なる改善が必要で、生物の良好な生息環境が維持できないことから、漁業等にも影響を及ぼしている
地球環境問題対応	循環型社会・低炭素社会・自然共生社会の形成、生物多様性の保全など、地球規模での環境問題への対応が求められている